

会津山塩の由来

北塩原村大塩 大塩裏磐梯温泉から採った塩です。

会津地方には大塩、塩坪、塩沢、小塩、塩生、熱塩、塩川など、塩のつく地名が数多くあります。

北塩原村の大塩は、藩政以前から明治時代まで会津若松と米澤を結ぶ米澤街道の宿場になっており交通の要衝の地でした。

弘仁3年(812年)僧空海が諸国巡歴の途中、大塩を訪れ、老婆の家に泊まり、塩が乏しいのを知って護摩を焚き、17日目に岩中から塩の湯が湧き出たと言い伝えられています。その塩の湯の湧き出た所を「塩井」といいます。

文化6年(1809年)に編纂された「むら新編会津風土記かがみ」と同じ頃の記録に「会津邑日記」や「会津鑑」があります。その中に、会津は海の塩の購入が容易でないため、領内の「塩井」から塩の生産をおこない藩への御料塩として納入させていたと記されています。

このように内陸に位置する会津にとって「山塩」は貴重な資源でした。

その「山塩」は、物流運搬の近代化により廉価の海の塩に押され昭和24年頃まで採塩しておりましたが、平成19年7月に復活し販売を始めました。

会津山塩企業組合

〒966-0402

福島県耶麻郡北塩原村大字大塩字立岩 6106

TEL0241-33-2340 FAX0241-33-2340